

令和8年1月28日

新しいまつばらの学校づくり審議会 教育長挨拶文

「新しいまつばらの学校づくり審議会」の第一回会議の開会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

皆様方におかれましては、ご多忙中にも関わらず、本審議会にご出席いただきましたこと、誠にありがとうございます。

松原市は昨年、市制施行70周年を迎えました。松原市がこれからも魅力ある街、住みやすい街、安心・安全な街、子育てしやすい街として発展・成長しつづけていくことは、市民の皆様共通の願いであると思います。

また、そのために学校教育が果たすべき役割は極めて大きく、子どもたちにとってよりよい教育環境を整えていくことは、私たち大人の責務であると考えます。

さて、我が国の少子化が言われ始めて久しくなります。本市における小中学校の児童生徒数は、ピーク時の昭和55年度には約二万四千人でしたが、令和7年度には約七千人となっており、45年の間に約7割も減少しました。

現在、松原市では松原西小学校と河合小学校を統合し、高見の里小学校として本年4月に開校するため準備を進めています。統合することになった松原西小学校と河合小学校は、多いときはそれぞれ1,000人以上の児童が在籍したものの、ここ数年は両校ともに全ての学年が1学級という状況が続いていました。

両校の統合を検討している過程では、「少人数であるがゆえ、先生方は子どものことを丁寧に見てくれている」という保護者の声を聞き、教育委員会としては誇らしい気持ちになる一方で、「6年間クラス替えもできない環境が子どもたちにとって本当にいいのだろうか」という思いや、「これからの予測困難な社会を生き抜いてゆくためには、多様な人や考え方に触れ、子ども同士が高めあえる教育環境の中でたくましく成長していったほしい」という思いもございました。

また、市内小中学校の施設面に着目すると、一番新しい校舎で建築後40年、一番古い校舎では建築後60年経過したものもございます。

安心・安全な街づくり・学校づくりに取り組んでいる松原市であるからこそ、私たちの宝でもある松原の子どもたちを、より安心・安全かつ充実した環境で学ばせてあげたいと願っています。

教育委員会としては、これまで申し上げてきたことを実現していくためには、現在の小学校15校、中学校7校という校数を、今後より一層加速していく少子化を見据え、小中一貫校の設置などを含めてより機能的に集約していく必要があると考えています。

その際、数を減らしていくこと、つまり単なる「数合わせ」を目的とするのではなく、「学習主体である子どもたちにとって、より良い教育環境をいかに提供していくのか」という点こそが最重要課題であると認識しています。

また、それと同時に、これからの学校づくりは街づくりと切り離して進めていくことはできないと考えています。

松原市の市制施行100周年、つまり30年後を見据えた学校の佇まいはどうあるべきかということについて、本審議会委員の皆様方のご知見や様々なご経験に基づき、建設的で未来志向の議論を丁寧かつスピーディに進めていければと思います。

簡単ではございますが、以上で教育委員会を代表してのご挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。